

2024年4月吉日

## セルロイドハウス横浜館バーチャルミュージアム

岩井セルロイドコレクションーセルロイド製新象牙根付・彫像品

### ネオアイボリ根付収蔵品のご紹介ーシリーズー1

館長 岩井 薫生 (いさお)

#### <まえがき>

19世紀後半から20世紀にかけて組成の半分が天然由来で、半分が人の手により誕生した一般名セルロイド（学術名セルローズナイトレート）材料が広く欧米市場に登場し、これまで天然物に限られていた用途の代替や新しい商品の開発につながり、商業化が著しく進展しました。

当初はコルセットやボタン、バツクルなどの衣服付属品、歯科材料、ビリアードの玉等の遊戯用品から始まり、その後人形の材料としては優れているとの一般の認識が進み、米国、ドイツ、フランス諸国で、いわゆるキューピータイプの人形が幼児や若年層に大歓迎され、玩具市場が広がりました。この流れで日本では多くのメーカーが商社を通じて海外からの注文を一手に引き受け下請け加工業の裾野が広がり繁盛しました。

20世紀前半は映画産業の勃興により付随して次々と新しい用途が見つかり大きな産業に成長しました。特に一般大衆の所得向上と生活水準の質的な変化によりカメラの普及が進みブームが起きてこれを契機にセルロイド産業の全般の発展をもたらし、日本の軽工業の基礎が築かれました。

20世紀も進むと石油化学やプラスチック工業の急速な発展により次第にセルロイドの用途が侵食され、代替が進み、プラスチックにその座を譲ることになりました。

21世紀の今日では残念ながらセルロイドを知る人たちは少なくなりましたが、セルロイドの持つ優れた材料特性、特に色彩性、柔らかな肌触り、心に触れる訴求性等がプラスチック製品とは異なり、現在でも世界各国にコレクターが存在し、セルロイド製品は高く評価され、愛玩されています。

セルロイド製品の種類は多岐多様で、最盛期には25,000種類を数えるほどになりましたが、その中でも興味あるグループとしてはグリーティングカード、ボタンやバツクル、化粧箱、宝石箱、優雅な写真立て、ご婦人用の高級旅行セット、キューピー人形、様々な動物ミニチュア品、その他装飾美術工芸品、セルロイド製根付と彫像品などはコレクターの垂涎の的になっています。

セルロイドハウス横浜館は愛好家に非常に愛されている象牙製根付及び彫像品をモデルとして一時期盛んに製作されていたセルロイド製根付（新象牙・ネオアイボリ根付と命名）を多数岩井コレクションとして保有しています。

現在この収蔵品の研究調査が進んでいますが、今回シリーズー1として現品確認と写真撮影が終了した優品のいくつかのコレクションをご紹介します、皆様のご参考に供します。

セルロイドハウス横浜館バーチャルミュージアムは今後1年6か月をかけて岩井コレクションの調査研究を完了し順次一般公開する予定です。

これからも引き続き皆様のご愛顧とお引き立てのほどをお願い申し上げます。

館長	岩井 薫生 (いさお)
研究調査班	佐藤 功
	横川 正博
	市川 洋
産業調査担当	松尾 和彦
技術調査担当	大井 瑛
バーチャル技術担当	大林 真一

### <製品紹介>

コレクションにある新象牙・ネオアイボリの彫像品については様々な種類があります。今回はその一部を紹介します。

仏像、仏教由来の七福神像、三国志を彷彿される中国の豪傑像、庶民の生活を模した民芸品・土産物、動物では「見ざる、聞かざる、言わざる」で有名な”3匹のサル”、象牙細工の雄たる”象”、また”ライオン”、”鹿”、そして帆船・蒸気船の写真を添付します。

新象牙・ネオアイボリ彫像品は象牙製を模倣した様々なテクニックを用いて作られており、本来の優品に匹敵する作品もあります。

これらの製作には大変な努力と熱意が注がれたことでしょう。その努力にはほとんど感心させられます。

<p>1.仏像</p> 	<p>2.二宮尊徳像</p> 
<p>3. 中国豪傑像</p> 	<p>4-1.七福神（瓢箪の中）</p> 
<p>4-2.瓢箪の先に描かれた京都の風景</p> 	<p>5.人力車</p> 
<p>6.日傘</p> 	<p>7.肥運び</p> 

8.野菜売り



9.三匹の猿



10.象



11.ライオン



12.鹿（大きな角の上）



13.鹿



14.駕籠（富士山の背景）



15.駕籠（貝の中）



16.玉子（箱根大涌谷）	17.帆船
	
18.帆船（オランダ国旗）	19.蒸気船
	
20.鬼面	
	